

マテリアリティ

保土谷化学グループは、「SPEED 25/30」を策定する過程で、経営理念に基づいた事業活動からマテリアリティを特定し、具体的な数値目標を設定しました。私たちが特定したマテリアリティは、「SPEED 25/30」の基本戦略

	外部環境認識	マテリアリティ	2030年度のありたい姿
STEP1. 社会への 影響が大きい 外部環境の 変化を特定	 地球環境	● 気候変動への対応	● 農業生産性向上、土壌改良に貢献
			● 水産資源減少対策として養殖に貢献
			● グリーンケミストリーの推進
		● 大気・水・土壌環境の保全	● 原単位および総量でのエネルギー、水資源の削減が進み、社会に貢献している
STEP2. 外部環境の 変化による事業 への影響を特定	 社会	● 製品・化学物質の安全確保	● 環境負荷削減（CO ₂ 削減、化学物質排出抑制、廃棄物削減等）を推進し、社会から評価されている
			● 湖沼浄化による飲料水確保に貢献
			● 化学物質に関する各国の規制法令を遵守し、化学物質が適正に管理されている
		● 製品の価値および信頼性の向上	● 環境や社会に貢献する製品を開発し普及させ、お取引先様から評価されている
STEP3. 保土谷化学が 解決に向け重点的 に取り組むべき 課題を特定	 人 （会社と組織）	● 働きがいの向上	● 安全で高品質な製品の供給を継続し、お客様から評価されている
		● ダイバーシティの推進	● DXを支える（環境に優しい）インフラ材料の提供
		● 健康経営、労働安全衛生の推進	● CSR調達方針に基づき、お取引先様とともにCSR活動を推進する調達を実施している
		● コミュニティへの貢献	● 感染症への対処に広く利用されている
	 ガバナンス	● 人権尊重理念の実践	● 事業所における社会貢献活動を推進し、地域において理解・評価されている
		● コーポレート・ガバナンスの充実	● 会社従業員が健康にいきいきと働いている
		● コンプライアンスの浸透	● ダイバーシティの推進と公平公正な人事処遇により、職場が活性化し、グローバル人材が育っている
		● リスクマネジメントの徹底	● ワークライフバランスが推進され、仕事と生活（育児・介護を含む）の両立が図られている
			● 無事故・無災害を継続し、社会から信頼されている
			● 人権尊重の意識が徹底され、ハラスメントなどが発生していない
			● リスク回避の「守りのガバナンス」とアップサイドチャンス獲得の「攻めのガバナンス」を両立し、成長を持続している
			● コンプライアンス意識が浸透し、変化する社会規範に対応している
			● リスク領域の損失を最小化し、リスクと裏腹の関係にあるチャンスを発見し、事業機会・収益機会につなげている

の前提となっていることから、「SPEED 25/30」で策定した「2030年度のありたい姿」とともに、中長期的な事業課題として全社を挙げて取り組んでまいります。

2025年度のKPI	取り組み	2024年度実績	貢献するSDGs
—	● 過酸化物の農業資材への展開	● 水稻種子消毒用として農薬登録申請中	
—	● 動物薬の拡販・普及	● 拡販、普及の継続	
—	● バイオPTGの展開	● バイオPTGの販売促進	
● エネルギー原単位：0.606kl/売上高百万円 ● CO ₂ 排出量：4.34万t-CO ₂ または原単位：0.868t-CO ₂ /売上高百万円	● 省エネルギー・省資源の推進	● 横浜工場、南陽工場、筑波研究所でCO ₂ フリー電力導入 ● ICP活用	 
● SOx 排出量：ゼロ継続 ● 産業廃棄物発生量：前年度発生量以下	● 環境負荷削減の推進	● SOx排出量：ゼロ継続→達成 ● 廃棄物発生量：前年度以下→未達	  
—	● 過酸化水素の新用途展開	● 新規分野への用途展開検討	
● レギュレーション違反：ゼロ	● 化学物質管理の充実	● 法規制管理の徹底により違反ゼロを継続	
—	● 次世代テーマ開発、新製品開発	● 次世代の基盤技術の構築、新事業の創出	
● 品質トラブル：ゼロ	● 安全で高品質な製品の供給	● 品質トラブルゼロ→達成	
—	● 電子デバイス材料、電子デバイス機器材料の拡大	● 新規材料の開発	
—	● サプライチェーンにおけるCSRの推進	● 「調達ガイドライン実施状況調査」の実施	 
—	● 過酸化水素誘導体、ホスゲン誘導体等の展開	● 飲料ボトル、内視鏡除菌向け拡大	
● 貢献活動数：前年度以上	● 地域貢献活動の推進	● 近隣高等学校からの工場見学ほか、環境支援活動を実施：前年度以上達成	  
● エンゲージメントスコアの向上：スコアの段階的向上	● エンゲージメント向上の継続的な施策実施	● エンゲージメントサーベイの実施と結果の還元	
● 女性管理職比率：13%	● 人材育成・活性化プログラムの推進	● 女性従業員を対象とした研修の実施・部門長を対象とした研修を実施	 
● 健康経営優良法人：認定 ● 有給休暇取得率の向上 ● リフレッシュ休暇取得率の向上	● 健康経営の推進	● 健康経営優良法人認定を継続	 
● 休業災害：ゼロ	● 労働安全衛生、保安防災の徹底	● 休業災害ゼロ→達成	 
● FTSE Russell評価（人権と地域社会：4.0）	● 人権啓発活動の推進	● 人権教育の継続実施 ● FTSE Russell評価（人権と地域社会：3.0）	 
—	● コーポレート・ガバナンスの向上	● 長期間となった会計監査人の交代 ● 個人株主を意識した株式分割等を実施	 
—	● コンプライアンスマインドの浸透	● コンプライアンス研修の継続実施（全役職員向け 年4回、グループ会社役員向け 年1回、取締役および執行役員向け 年1回）	 
—	● 幅広く精緻なリスク認識・評価と適切なリスク軽減策	● リスクマネジメント委員会でリスク認識の共有化、リスク軽減策の検討を実施	